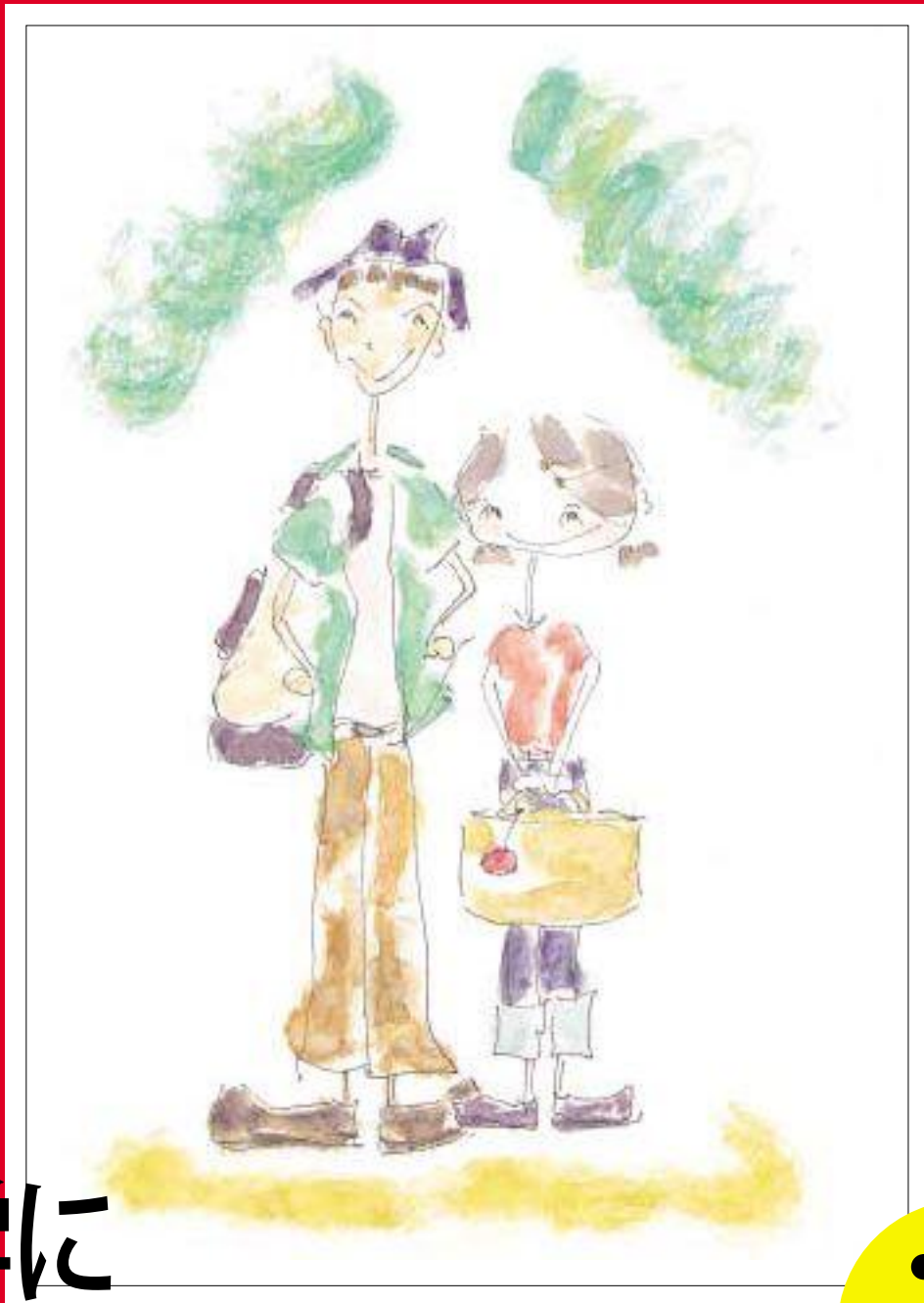


熊大通信

KUMADA TSUSHIN

Ag2001

Vol.2



特集

大学に できること・教育編

～教育学部附属教育実践総合センターと教育学部のとりくみ～

●付録●
熊本大学周辺
マップ



P.6



P.10



P.1



P.8



P.12

CONTENTS

〈目次〉

知と社会

Vol.2

大学にできる こと・教育編

～教育学部附属教育実践総合センターと教育学部のとりくみ～

P.1

熊本大学に聞いてみたい!!

～“医者”になりたい～

真和高校／田上佳世さん・大内繭子さん 熊本高校／板橋由紀子さん・小澄敬祐さん

P.6

熊大群像

「阿蘇・千年の草原を守り、未来へ手渡していくために」

熊本大学教授 佐藤 誠

P.8

OB・OG訪問

「“地域密着”の報道、それが番組づくりのテーマです。」

RKK「ニュースキャッチャー」キャスター 福島 絵美さん

P.10

国際交流事情 ～国際総合大学としての熊本大学～

～ルーマニアから日本へ～

材料開発の最先端・形状記憶合金を学ぶ ソロモン・ビリジルさん

P.12

熊大INCEMAION

P.14



知と社会

Vol.2

大学にできる こと・教育編

教育学部附属教育実践総合センターと
教育学部のとりくみ

子どももたいへん、親もたいへん、教師もたいへん、

そんな教育問題に大学はどう関わろうとしているのでしょうか。

現場で役立つ処方箋づくり、

力のある教師を育てていくためにはどうすればいいのでしょうか。

今どうにかしないと。

研究機関であり教員養成機関である大学から

教育現場へのアプローチが始まっています。

2001年6月、シヨッキングな事件が日本中を震え上がらせました。大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件です。幼い命が奪われ多くの人が悲しみました。恐怖で心に深い傷を受けた子どもたちの後遺症も心配です。テレビや新聞が連日にわたって大きく報道しました。

「誠に痛ましい限り」と小泉首相、「強い憤りを覚える」と大阪教育大学長のコメントが報道されました。そして数日後、熊本でも小学校に警備員が配置されていきました。

この事件だけが例外ではなく、教育の問題はいたるところにある社会問題です。家庭と学校との在り方、教員の質、受験勉強、いじめ、不登校などいろいろです。根っこは同じでしょうが、目に見える事象はそれぞれ複雑にからみあつていてなかなか難しい問題です。

大学が地域の役に立てることは、いろいろあるはずですが。地域の人たちとともに活動していくことに、いま熊本大学は取り組みようとしています。地域と交わることで大学は社会のニーズを理解し、より役立つ存在となり、そして地域社会もその成果を享受できるようになる、それが熊本大学の進もうとしている方向なのです。

こういった熊本大学の姿勢は、地域社会及び学校現場に伝わっているのでしょうか。大学の社会との関わり方については、現場の声が届いていないとか、現実問題に有効な対応策を提示していないとか、はじめに理論ありき、ともすればそういった印象を持たれているのではないのでしょうか。

これからを担う人材を育成していくこと、また教



育というテーマの諸問題を研究していくことも、熊本大学が大いに取り組んでいるところとされていることです。

先生たちは疲れている

熊本大学の取り組みは、実は昨日今日に始まったものではありません。あまり知られていないかもしれませんが、これまでも大学としても地域の学校に向向していました。授業の在り方をアドバイスしたり、学級崩壊しているクラスの建て直しに当たったり、今では定着してきた職場体験活動を推進したり。そのような取り組みの中心となって教育現場と関わってきたのが、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター(以下「センター」といいます)でした。センター

専任の二人である吉田道雄教授はいます。「教師たちも悩んでいます。教師たちは自分自身の悩みを気軽に相談できる場所がないんですよ。一人で悩みに悩んだ末、本気でやめたいというところまで追い詰められている教師も少なくありません」。

もともと多い悩みは、対人関係に関わるものです。上司や同僚との人間関係や、教室で子どもたちと上手く接していけないといった悩みです。教室から出



吉田道雄

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター教授。専攻は集団力学、社会心理学。熊本県教育相談専門員他多数の社会的活動に関わっている。

て行ってしまう子どもたちの対応に迫られて、まともな授業ができないとか、担当する部活の成績が上がらずに、子どもや保護者たちからの信頼を失ってしまったとか、また授業を一生懸命にやっているが、子どもたちの反応が弱く、教え方に自信が持てないなどなど。「今の教師たちは、一般的に対人関係のスキルが不足している」と吉田教授は指摘しています。子どもたちと、保護者と、地域と、また教師同士でも、上手くコミュニケーションがとれず、ストレスや苛立ちをためこむ教師が増えているといえます。先生たちの精神的なストレスは大きな問題です。きちんとしたメンタルヘルス支援を先生たちに行うことが、子どもたちの学校での生活環境を整える第一歩です。

センターをご利用下さい

悩みを持った先生方のみならず関心のある方でもセンターがサポートします。どうぞご利用下さい。センターは、この9月から、(原則として毎週月曜日～金曜日の午後6時～8時)来所相談を受け付けます。また、学級崩壊や不登校の悩みに臨床心理士やカウンセラーなどの専門家がこちらから出向いて相談に応じます。センターは教育現場と大学とを結び接点です。「ここであれば、利害関係もなく、気軽に相談することができるでしょう。個別の相談への対処療法を積み重ねることで、問題の根っこを解明することができればとも考えています」と吉田教授はいます。また辻野智二センター長は、「教育現場



熊本大学教育学部附属教育実践総合センター

〒860-0081 熊本市京町本丁5番12号
TEL096-325-3282
FAX096-352-3468



辻野智二

東北大学流体科学研究所助教授、熊本大学教育学部助教授を経て、'93年教授に。'01年に附属教育実践総合センター長に就任。

への支援を強化していくことが大きな目的」としながら、さらに、センターのもう一つの役割として「大学の研究機関として、個別の相談を受けるだけでなく、そうした相談をベースに組織的に調査・研究を進めていくことも大切な役割です」ともいいます。現在スタッフはセンター長を含めて6人。大学の教授、心理学の専門家、行政からも客員教授を迎えて、幅広い陣容で相談・研究業務を行います。

現場の先生方への宣伝はまだこれからです。今後知名度をあげ、二つ二つ事例を蓄積していくことで、熊本の学校現場と地域社会、そして大学とをつなぐ中核的な存在になればと願っています。

また大迫靖雄教育学部長は、「センターの活動は、学校現場の先生方、教育機関、行政などの協力もいただきながら進めていきます。特に、現職の教員を対象とした教育相談を旗印としてやっています」とい

教育のあり方を模索するシンポジウムの様子



うセンターは、全国でも少ない」といいます。

教育現場の声

現場の教師にとっては、こうした大学の働きかけやセンターの相談窓口はどう受け止められているのでしょうか。

熊本市立出水中学校の山下一郎校長は、「これからは人が最高の資源」と教育の必要性を強く主張しながら、「教師は“未来”を作っていく仕事。そういったプライドが大切なのです」といいます。さらに、大学と学校現場との“融合”が、日常的に進むことが必要だと指摘します。

「大学の先生たちは、教育実習など限られた場合以外はなかなか学校現場には足を踏み入れられない。大学と学校現場との相互乗り入れがもつと進めば、いろんな問題にも協力して対応していけるのではないのでしょうか。学校現場も研究機関である大学も、「すばらしい子どもを育てたい」という目的は同じです。「現場と大学が車の両輪となることが大切で、その時に両輪をつなぐシャフトとしてのセンターの役割には大いに期待しています」。



山下一郎

熊本大学教育学部卒。数学教育専攻。附属中学校をはじめ熊本市内外の小・中学校に勤務。現在、熊本市立出水中学校長。そのほか熊本県中学校数学会教育研究会長なども務める。

また、センターが新設する教師たちの相談窓口については、「店を開きましたから、さあどうぞで、ではダメで、足を運んでもらい利用してもらおうための仕掛けやサービスが必要じゃないかなあ」。山下校長は「行商」という言葉を使いながら、「教育はサービス業。窓口を開くだけでなく、積極的に行商に歩いて、学校を訪問して回るんですよ。それぐらいの熱意とサービス精神が必要だと思いますね。大学の中に閉じこもって、じつと患者を待っているのではなく、こちらから出向いて行って病人を探す。それぐらいの熱意

がないとダメでしょう」。

現場のニーズをすくい上げ、子どもたちは、教師は何を求めているのかを肌感覚で察知すること。それが、これからの大学には求められると山下校長は考えています。

能力ある教師を育てていく

これまでのことは、すでに学校現場で教師として働いている人たちに対しての対処療法ですが、もう一つの大きな大学の役割は、これから巣立っていく教師の卵たちをどのように育てていくかということです。



太迫靖雄

熊本大学教育学部 学部長・大学院教育学研究科 科長。'95年に就任以来現在4期目を迎える。

現在の社会環境に応じた大学のカリキュラムを再構築し、能力ある教師を育てていかなければなりません。それが、「教育学部の原点である」と太迫教育学部長は言います。出水中学校の山下校長は「大学は、自分たちが学生に教えることが、将来その学生を通して、教育現場で子どもたちにつながついていくのだ」ということ、そのことをもっと認識するべきだと思います。高度な研究だけを指すなら他学部でもできます」といいます。

平成14年度から施行される新学習指導要領では、

教育内容が厳選され、「総合的な学習の時間」が新たに導入されます。教科書に載っていることだけを教える授業から、自分たちで企画し創造していく体験型の授業へ。それは現場の教師や、教育学部の学生たちにとっても、新たな課題となります。そうした体験学習のためには、保護者や地域社会とのネットワークを活かし、研究機関、行政との相互交流も進めていくことが必要となります。

体験型の実践教育をカリキュラムに

熊本大学では、センターを中心に、教育現場と直結したカリキュラムとして、平成9年度から「フレンドシップ事業」を行っています。

現在の教員養成教育の中で、教育実践に関する部分が欠けているという指摘は以前からありました。そうした声を受けて、4年前から、授業の二環として行っているのが「フレンドシップ事業」です。

この事業は、教育学部の2年生から4年生向けに開講されていて、卒業単位として認定されます。50人程の学生が「Make Friends」というグループを作り、自主的に活動します。地域の公民

館などに出かけて、お祭りやイベントに参加したり、子どもたちと一緒に体験し、活動しようというフレンドシップ事業。学生が企画立案から運営まですべてを自主的に手掛けるのが特徴です。今まで行っていた内容は、「はじめのお買い物」「ジャンボカルタ大会」「もちつき大会」「自然の中で楽しく遊ぼう！」「オリジナルハンカチ作り」「ドロンゴ遊び」と、多岐にわたっています。

辻野センター長は、「今の学生たちは、自分たち自身が体験不足。泥んこになって遊んだこともなければ、野原を駆け回った経験も少ない。小さな子どもと一緒に遊んだこともないでしょう。そんな学生が教室に立つて40人の子どもたちを前に、キチンとした授業をすることなんてできませんよ。そんな学生の体験不足を補い、現場での予行練習をすることが、このプログラムの目的なのです」。

実践内容に即した授業内容を取り入れていくことが、これからの教育学部には何よりも重要なのだと、辻野センター長は指摘します。教育には、これからを担う人材を育てていく役割があります。そして時代が変わろうとも、本当の意味での「教育」が重要であることに変わりはない、そう思います。



フレンドシップ事業の様子

熊本大学に

聞いてみたい!!

「医者」になりたい

「医者とは、その職業のひとつです。医学部に進学すればそのままドクターになれるの？ 専門としてどうやって決めるの？ 自分は医者に向いているかなあ？」聞いてみたいシリーズ。今回は、「医者になりたい」。真和高校、熊本高校の3年生がハラハラ、ドキドキ、医学部薬理学第二講座の西勝英教授を訪ね、いろいろ聞いてみました。



Q 田上 医学部ってどんなことを勉強するのですか？

A 西 医学部は他の学部と違って修学期間は6年間です。最初の2年間は医学を学ぶための基礎となる学問領域を学習し、2年次の後半から医学部らしい勉強が始まります。まずは「正常な体」の仕組みを学び、それから「病気のメカニズム」をさらに詳しく勉強して、5年、6年で内科、外科などの臨床の専門分野を回って勉強をします。最後に卒業試験をパスして初めて、医師国家試験を受ける資格が得られるわけです。医学部を出たからすぐに

●今回の体験者
真和高校3年生
たがみ かよ
田上 佳世さん

「子どもの頃のホームドクターにあげられて、その後テレビや本で難病に苦しむ人たちが救う医者の存在を知って、自分もそんな風になりたいなあと思いました」



4年間の勉強を積んで初めて専門医として活躍できます。30歳ぐらいまでは、働きながら勉強する

●今回の体験者
真和高校3年生
おうち まゆこ
大内 繭子さん
「脳外科の先生の講演を聞いてから、脳外科にすごく興味を持ちました」

医者になれるわけではないんですよ。国家試験に合格しても、まだ一人前の医者とは言えない。その後さらに2年間、研修医として現場で働きながら勉強するわけです。つまり、皆さんが「医者」になるまでに8年間かかる。いやあ、長いねえ笑。

Q 大内 私は脳外科医をめざしているのですが、どうやってたのめられますか？

A 西 専門医を目指すには、2年間の研修の後、専門の分野や大学院でさらに研究を重ねることが必要です。8年間プラス

の医学界を担う人材の育成にも力を入れています。先端医療には探求心も必要です。この仕事は一生勉強だと思ってください。

Q 板橋 医学部では実習がとて大切だと聞きましたが、どんなことをするのですか？

A 西 医学部では講義と実習はセットになっています。学年が上がるにつれて、解剖実習や、患者さんに接するベッドサイドでの実習も始まります。外科、内科、小児科などすべての専門ごとに実習をこなしていかなければなりません。

Q 小澄 熊本大学から海外の大学への研修制度はあるのでしょうか？

A 西 アメリカのモンタナ大学やイギリスのパーミンガム大学などとは交換留学生の制度があります。大学院になると、2年間はアメリカ等の大学の医学部で勉強できるし、しかもそこで取得した単位は本学の単位として認められるシステムとなっています。

Q 小澄 高校で生物を選択していいなくても大丈夫でしょうか？

医学部薬理学第二講座
に
かついで
西 勝英 教授



A 西 うん、大丈夫じゃないんですよ。ねえ笑。でも、受験制度の問題で、そういう高校生がけっこう多いんです。医学部では高校レベルの生物学は基礎としてぜひ必要です。そこで、入学後に基礎的な生物学を学ぶコースを熊本大学では設けていますので、生物を選択しなかった人はそこで十分に補ってください。



●今回の体験者
熊本高校3年生
おしほ けいいち
小澄 敬祐さん
「獣医である父親の姿を見て小さい頃からあこがれていました。テレビの『ER』の影響もあるかなあ笑」

Q 大内 医学部ではどんな研究が行われているのですか？

A 西 熊本大学の研究棟では病気のメカニズムと生命科学の基礎的研究を行っています。他にも、日本のエイズ研究のメッカ、エイズ学研究センターや、遺伝子研究の最先端を担う、動物資源開発研究センターなどがあります。医学部は医療施設をサポートする研究施設です。医学部の学生は卒業して、いわゆる「お医者さん」臨床医になる人もいれば、私のように研究職に就く人もいます。また、臨床医になってからも、また勉強をしたいと思ったら大学院に入って研究を続けることもできます。医学部に入っても多様な選択の道があるので。

という毎日です。から、かなり大変です。でも、先輩たちはみな、そのハードな日々をしつかり乗り越えて、第一線の専門医としてバリバリ活躍しています。

Q 田上 医師を志す人に最も求められるものは何ですか？

A 西 医者という仕事に求められるのは、人の感情を受けとめ、理解できる感性です。偏差値など受験の成績だけじゃない。自己中心的ではなく、他人を理解し、その感情を受けとめることができる人であってほしい。単に「カワイソ〜」ではダメ。その人の症状を客観的に分析し、判断する知識と能力が求められます。医者は常に人を相手にする仕事です。コミュニケーション能力は最も大切です。さらに、熊本大学の医学部では将来

Q 全員 医学の魅力って何ですか？

A 西 この仕事は人の命を預かるわけですから、毎日がストレスの連続です。人の体は機械ではありません。みんなの顔が一人一人違うように、人の体もそれぞれに違います。そうした多様な一人一人に医療行為を行うわけですから、判断も難しくなります。さらに精神的な問題など、サイエンス以前の部分も抱えています。そうした難しい部分がある反面、人と接し、人と交わる面白みもたくさんあります。日々進歩していく先端医療の分野も、患者さんと接する臨床分野も、どちらもとてもやりがいのある仕事です。私も長く医学の研究を続けてきましたが、「おもしろい仕事だなあ！」と心底思いますよ。



●今回の体験者
熊本高校3年生
いわた ゆきこ
板橋 由紀子さん
「将来は遺伝子レベルの研究をして、不治の病の人を救いたい」

「話しを終わって、勉強だけでなく、人との関係を大切にしていかなければならない」と知りました。厳しい仕事だなあと痛感しました。お話を聞いて、ぜひ医学部へという思いが強まりました。西先生は「高校生の皆さんの真摯な態度に感銘を受けました」と終始笑顔で、「目的意識をしっかりと持って学部を選んでください」とアドバイス。



熊本大学教授 佐藤 誠

1944年中国生まれ。九州大学経済学部大学院博士課程中退。九州大学助手を経て、旧西ドイツへ留学。1984年から熊本大学教育学部助教授、教授を経て、2000年から法学部公共政策学科教授。専門は地域経済論。ツリウム論。法学部地域連携推進委員長として「熊本大学地域連携フォーラム」運営にあたる。阿蘇グリーンストック理事として阿蘇の草原を生かした田園リゾート作りをライフワークとして取り組んでいる。著書に「リゾート列島」など。

阿蘇、千年の草原を守り、未来へ手渡していくために

草原を守ることは
未来への責任です

触れて、うくん、なるほどなあと、すっかり説得されてしまつて(笑)、ミイラ取りがミイラになったわけです。ヨーロッパの田園リゾートにも詳しくかつた佐藤さんは、「阿蘇の財産である原野を開放し、今までにない新しいリゾートを作

「地元の人しか知らない秘宝のような場所があるんです。まるで秘密の花園のような。そこへ行くと、命を吹き込まれるような気持ちになります」。こんなスゴイ場所が身近にあったのか。阿蘇の自然が持つ美しさと、素晴らしさに「ラツときた」佐藤さん。

「これは自分たちがしっかり守っていかなければいけない大事な場所だという思いを強くしました」。

以来佐藤さんは、北海道からモンゴル、中国と、草原の保存を訴えて歩く日々が続きます。「アジア全体が同じような問題を抱えていることが分かったのです」。農業や林業、畜産が衰退していく中、大切な観光資源である自然景観が失われてゆく。そんな現状を見るにつけても、「今、阿蘇の草原を守らな」と大変なことになる」という思いがふくらんでいったのです。

千年の草原、阿蘇を支えてきたのは、人と自然とのコラボレーション(協同作業

経済学者 阿蘇の草原と出会う

熊本大学教授・佐藤誠さんは、阿蘇の草原の魅力にとりつかれた一人。1986年、農林水産省から阿蘇地域のリゾート開発調査を依頼されたのがきっかけでした。都市問題を専門とする気鋭の経済学者にとって、阿蘇は全く未知の分野でした。「最初はリゾート施設を作つて観光客を呼び込もうという立場で阿蘇に入ったんですけどね」。そこで出会ったのは、地元で農業や牧畜について考える若手グループでした。



大学では、授業にのめりこんでいます。「君はどう生きるんだ」、学生に対しても熱く語りかけています。

森や原野をつぶして人工の芝生を張り、それが自然だなんて変だ！そんなものリゾートじゃない。「彼らの熱い思いに

ろう」と、グリーンストック運動の理論的支柱となつて駆け回ることになりました。



「グリーン・ツーリズム (GREEN TOURISM)」とは「農山漁村で楽しむゆとりある休暇」ということです。

ヨーロッパでは、バカンスを利用して農村に滞在し、緑豊かな自然や伝統文化・人々との交流を楽しみながら余暇を過ごすことがライフスタイルの一部となっています。

熊本大学を ツーリズムのメッカに

でした。1995年に発足した「グリーンストック運動」では、「草原の維持には地元の畜産農家だけではダメ。農村と都市とが協力して緑の財産を守っていくことが必要だ」と訴えてきました。「阿蘇の草原が危機に瀕しているというけど、本当は都市に住む人たちこそ危機なのです。水の供給地であり、全でおいしい牛肉やミルクの産地であり、心を癒す美しい風景の阿蘇を失って一番困るのは都会に住む人たちでしょう?」

都市と農村との交流の中から、互いに補い合う関係作りが生まれます。「農村が持っている生命力を都市へ、都市のパワーやエネルギーを農村へ」。そんな命の循環、生命のネットワーク作りが佐藤さんの理想です。

「豊かさというのは、モノやお金をたくさん持っていることではなくて、自由時間をどれだけ多く持っているかということです」そんな自由な時間をゆつくりと過ごす場所として、阿蘇は最適な「ゆた」。



写真／長野 良市

豊かさの創造というテーマのもと、世界で今、最も注目を集めているのが「ツーリズム産業」です。「ツーリズムは今やヨーロッパで基幹産業とまで言われています」。欧州諸国ではGDPの1割を担うまでに成長しているツーリズムは、1×2×3＝6次産業とも言われます。それだけ他の産業との関わりが深く、ビジネスチャンスも広がります。「この不況を脱するためには、ツーリズム産業の育成しかない」と私は思っています。自由時間が増えていけば、将来はかなりの雇用にも結び付くでしょう」。

日本でツーリズム産業を育てるためには、大学の役割が重要です。「人間らしい時間・空間を育成していくことこそ大学の使命」と佐藤さん。「熊本大学をツーリズムの人材育成のメッカにしよう!」と提唱しています。「海外ではそうした人材育成の場がたくさんあるのに、日本ではまだまだ。学生もワークショップなど社会の動きと深く関わり、社会人も大学で学び直すような、境界を超えたツーリズムは研究分野としても注目されます」。佐藤ゼミからはアジアへ留学する学生が増えています。阿蘇の草原を核にして、アジアとの連携が着実に深まっています。

“地域密着”の報道、それが番組づくりのテーマです。

ニュースキャスターとしてテレビ画面を通じてお馴染みの福島絵美さん。彼女も熊本大学のOGの一人です。アナウンサーとして熊本放送に入社後、アメリカ留学を経て、現在は報道部に所属。ニュースの最前線で忙しくも充実した日々を過ごす福島さんに、学生時代の思い出などを伺いました。



PROFILE

静岡県三島市生まれ。高校2年の時父親の転勤で熊本へ。県立熊本高校へ転入。熊本大学教育学部心理学科卒業後、アナウンサーとして熊本放送に入社。1993年国際ロータリー財団ジャーナリズム研修生として、アメリカ・ワシントン州シアトルのCBS系のTV局と、熊本県と姉妹関係にあるモンタナ州のKPAX-TVでニュースリポ

ーターを務める。帰国後RKKテレビ「週刊山崎くん」の初代キャスターとして、番組制作にもあたる。その後出産、1年間の育児休暇のあと現在、RKKニュースキャッチャーのメインキャスター。去年4月からは、熊本県の男女共同参画社会推進懇話会委員を務める。☆趣味:エアロビクス

テレビドラマの熱血先生に
あこがれて(笑)教育学部を
めざしました

「福島さんは教育学部のご出身だと伺いましたが。」

福島 小学校の先生になりたくて、教育学部の小学校教員養成課程で心理学を専攻しました。なぜ、学校の先生かというと、笑っちゃうような理由なんです。高校生の頃、テレビドラマで金八先生とか、熱血教師が大人気で、その影響をまともに受けまして、「子どもたちと一緒に笑ったり泣いたりできるような先生になりたい!」って(笑)。

熊本大学には、高校時代から「黒髪祭」に遊びに行ったり、身近に感じていまし

インタビュを受ける側から、
インタビュアーへ

「教職からマスコミへと志望を変更されたのは、いつ頃だったのですか?」

福島 大学3年生の頃ですから、決して早くはなかったですね。きっかけは、「ジャズ研」と「ミス熊本」でした。

その頃、私はジャズ研に入っていました。ピアノを弾いていました。当時はジャズ、フュージョンが大流行で、フュージョンのフュンダー「ローズ」というピアノの機種があったんです。ジャズ研の仲間たちと「いねえ、欲しいねえ」と。でも、みんな学生ですからお金はない。当時の値段で20万円もしたんです。大学2年生の頃でしたが、その時ちょうど「ミス熊本」

たから、教育学部なら熊本大学だと自然に決めました。教育実習にも行っただんですよ。小学校の子どもたちと一緒にワイワイ遊んで、とても楽しかったです。でも、実際の学校現場では、当然ながら楽しいばかりじゃない。教師という職業の大変さ、子どもへの影響力の大きさも痛感して、これは自分には荷が重いなあとという気持ちになりました。

の募集を知って、その賞金が20万円！とピタリだったのです(笑)。仲間内で誰かをミスにして賞金を獲得しようという話しになりました。たまたま私が選ばれて、念願のピアノをゲットしたというわけです。「ミラ熊本」に選ばれると各地へキャンペーンに出かけたり、テレビやラジオのインタビュアーを受けたりするんですね。そんな時にうまく受け答えができなくて…。私のインタビュアーだけが、いつもカットされるんです。それが結構ショックで、何とか人前で上手にしゃべれるようになりたいなと思ったのが、アナウンサーを志すきっかけになりました。その頃、取材で多くのマスコミの方と知り合いになって、「おもしろそうな仕事だなあ」と興味を持つようになりました。

地域密着のニュースを作る上で、母校とのつながりが貴重な財産になっています

—福島さんが熊大で学ばれたことは、現在の報道の仕事にどう役立つているのでしょうか。

福島 専攻が心理学でしたから、大学ではコミュニケーション論の勉強などもしました。その時の勉強が、現場での取材やインタビュアーにとっても役に立っています。

ます。

今の自分の基礎を形作っているのは、すべて熊大で学んだことです。高校生まではほとんど白紙の状態です。大学でそれに色を塗り、完成させていくのだと思います。熊大は先生方も優秀な人材がそろっていますし、緑も豊かで環境もすばらしい。熊大で学んだ日々は私にとって最良の糧となっています。

現在、ローカルニュースのキャスターをしています。ですが、「地域密着」が報道の大きなテーマです。医学部の先生方と一緒にエイズ問題を取り上げたり、水俣など環境問題も大学の協力をなしにはできません。自分自身が熊本大学の出身であることで、OB、OGなど大学を通じたつながりも濃くなります。母校への親近感もありますし、地域の問題を取り上げる上で大きなプラスになります。地元の大学に進んだ事が、今の仕事には大きなプラスになっていると感じます。

—福島さんから今の熊本大学への注文や意見がありませんか？

福島 数年前に国際ロータリー財団の留学生として1年余りアメリカのモンタナ州で過ごしました。モンタナ大学にも通っていましたが、本当にいろんな年代の人たちがキャンパスにいます。日本の大学とは雰囲気は全く違うなあ

と感じました。その時、アメリカの「地域に開かれた大学」というシステムを肌で感じたのです。熊本大学でも、もっともつと社会人を視野に入れたシステム作りをしていただきたいと思っています。

私も4歳になる男の子がいますが、子どもの手がもう少し離れたら、また大学で勉強したいなあ、なんて夢もあります。



ニュースキャスターの醍醐味は、“現場”に立ち会えるということです。時代に残る事件や出来事を同時代人としてリアルに体験できることは、とても刺激的なことです。時代の証人として、さまざまな出来事を的確に、クールに、でも時には熱く伝えなければならない。難しいけど、とてもやりがいのある仕事です。





国際交流事情 ～国際総合大学としての熊本大学～

熊本大学は今、さまざまな国から多くの留学生を受け入れています。彼らはどんな思いで熊本へやって来て、何をめざして頑張っているのでしょうか。留学生たちの日常を通して、熊本大学の“国際化”をのぞいてみました。

1回目は、ルーミアからの留学生ソロモン・ビリジルさん(35歳)にお話を伺います。

先端技術研究に魅せられて

ソロモンさんが熊本大学に留学したのは、今から3年前のことです。

母国ルーミアで大学の講師をしていた時、たまたま図書館で見つけた論文がきっかけでした。それは、熊本大学自然科学研究科の西田稔教授が専門誌に発表した形状記憶合金をテーマにした論文でした。ルーミアでは、この分野についての研究はまだ緒に就いたばかり。とりわけ、高価な材料と装置を必要とする研究には、なかなか手が出せません。「ぜひ自分

～ルーミアから日本へ～

材料開発の最先端・形状記憶合金を学ぶ ソロモン・ビリジルさん



も、西田先生のもとで研究がしたい」と、ソロモンさんは何度も西田先生へ手紙を送り、自分の気持ちと留学の意志を伝えました。

メールや手紙でのやりとりを重ねる中で、ルーミアの日本大使館が募集する留学生試験を知り、念願の熊本大学へやってきました。現在は自然科学研究科材料開発工学講座の西田教授のもとで、形状記憶合金の研究を続けています。指導教官である西田教授は、「最初から私の論文がきっかけで留学を希望したぐらいだから、とにかく研究熱心。何事にも前向きです」と、その積極性を高く評価します。

「ルーミアで研究者としての基礎を身に付けているので、日本での研究もスムーズに進んでいるようです」。

研究室の仲間たちと一緒に

形状記憶合金の分野は、日本とアメリカが世界をリードしています。そして最近ではヨーロッパでも大きなプロジェクトが進行するなど活発化しています。産業分野への応用、実用化も徐々に進み、特に医療面での活用がこれから大いに注目されています。

「ルーミアに帰ったら自分はこの分野での第一人者になるでしょう」と言うソロモンさん。最初は研究生として2年間の留学予定でしたが、さらに研究を深めるため博士課程に入学し、あと半年余り熊大に

日本にくるきっかけとなった西田教授の論文。
熊大では世界に通用する研究がなされている。



在籍することになっています。将来の夢は、「国に帰って若い人たちを指導し、材料開発分野で母国の発展に役立ちたい」と、熱っぽく語ってくれました。

「彼が研究に加わったことで、自分たちの仕事の世界とつながっているんだという実感を、学生たちが持っているようになったんじゃないでしょうか」と言う西田教授。ソロモンさんの存在は、研究室の学生たちにとっても良い刺激となっているようです。

西田研究室は同分野の千葉研究室とあわせて、現在18人の学生の内、留学生は韓国、中国及びルーマニアからの3人。また、刺激を受けてアメリカのアリゾナ大学へ留学した日本人学生もいます。ソロモンさんをはじめとし留学生と共に学ぶ中で、日本人の学生たちも大いに知的刺激を受けているようです。

学生同士のコミュニケーションも活発に

西田研究室では日本語と英語が自由に飛び交っています。ソロモンさんと同じ研究チームに所属する大学院修士課程1年生・福永雅子さんは、「彼は気遣いも日本人以上に細やかで、一緒に研究していて特に困ることはありません」と言います。研究を離れ

てのコミュニケーションも盛んで、飲み会など学生たちの輪の中にソロモンさんの笑顔が混じります。

「積極的に学会にも参加して、チャレンジ精神旺盛。スコイなあと思いますが」と言うのは修士課程2年生の木村秀二さん。研究室の野球大会には息子を連れてきて、家族一緒に楽しんでいます。大学のイベントなどにも気軽に参加し、仲間たちや先生たちとの付



き合いをととても大事にしているソロモンさんです。

家族ぐるみで熊本の暮らしを楽しむ

ソロモンさんは妻のダニエラさんと息子のカリン君(7歳)、娘のスマランダちゃん(1歳)の4人家族。「私も

熊本大学の研究生として1年間の予定で留学しました。その期間中に下の子、スマランダが生まれて、夫の留学が終わるまで、家族一緒に熊本で暮らすことになりました。」とダニエラさん。

近所のスーパーや子供商店街で買い物をしたり、スマランダちゃんと公園にお散歩に行ったり。地域での暮らしにも、溶け込めています。

長男のカリン君は黒髪小学校の2年生。熊本に来た当初から地元の幼稚園に通っていたカリン君、家族の中で日本語が一番達者。特にバリバリの熊本弁が得意です。

熊本で暮らして今年で3年目。大学で、地域で、自然体で暮らすソロモンさんとその家族の姿が印象的でした。



ソロモンさんが祖国ルーマニアで在籍している大学。
Ch Asahi Technica University of Bsi



熊本大学 知のフロンティア講座 第1回

9/22
土

「生命科学の現在－ヒトという生き物」

江口 吾朗 熊本大学長

科学・技術の発達や世界の動き、人間や社会のメカニズム解明など最先端の研究を、イキイキとわかりやすく市民にお伝えする熊本大学「知のフロンティア」講座が始まります。



第一回目は、急速に進歩している生命科学について、生物学からみたヒトという生き物を通して考えてみたいと思います。

入場無料

熊本大学文学部・法学部A教室
(黒髪北地区キャンパス)

10/20
土

第2回「消える野生生物－生物多様性と野生生物の保護」

内野明徳 沿岸域環境科学教育研究センター長

お問い合わせ・申込先

熊本大学生涯学習教育研究センター
TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3281
E-mail sos-shogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

参加お待ちしております。

熊本大学公開講座



「シュピーゲル」誌を読む会 (中級ドイツ語講座)

- 開講日時 9/1(土)～11/1(土)
※9/15(祝), 11/3(祝)除く
土曜日 13:30～15:30
- 受付期間 8/1(水)～8/31(金)



映画は時代を映す鏡

- 開講日時 9/22(土)～12/1(土)
土曜日 14:30～16:30
- 受付期間 8/13(月)～9/14(金)



身の回りのくすり」と健康

- 開講日時 9/22(土)～10/20(土)
土曜日 14:00～15:00
- 受付期間 7/16(月)～8/15(水)



電子玩具製作で学ぶコンピュータの基礎基本

- 開講日時 9/22(土)～10/20(土)
土曜日 14:00～17:00
- 受付期間 8/1(水)～8/31(金)

お問い合わせ先

総務課生涯学習係
TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3110
E-mail:sos-syoga@jinukumamoto-u.ac.jp



数学の世界への招待

- 開講日時 8/22(水)～8/25(土)(予定)
前半 13:00～14:40 後半 15:00～16:40
- 受付期間 7/2(月)～8/1(金)

お問い合わせ先

理学部数理科学科事務室
TEL 096-342-3341

8/18(土)～19(日)

「青少年のための科学の祭典・熊本大会2001」が開催!

この「科学の祭典」では、創造性と熱意あふれる小・中・高・大学の先生方が会場いっしょに、まるでお祭りの出店のよう、それぞれユニークで工夫された実験や工作を繰り広げ、科学の楽しさを追求していきます。

たくさんの方のご来場をお待ちしております。

グランメッセ熊本

入場無料

問い合わせ先

「青少年のための科学の祭典・熊本大会2001」事務局
TEL:096-342-2541 FAX:096-342-2542



9/1(土)～2(日)

水俣病の現在と地域の再生

～めぐりめぐる みなまた～

熊本大学は「水俣病の現在と地域の再生」をテーマに、地域の行政や民間と連携して水俣病問題と地域の政策課題を検討し、水俣病事件を教訓とした地域社会のあり方と今後の可能性を追求していきたい。



主な内容

- 9/1 シンポジウム「水俣病の現在」
「もやいの水俣」
「水俣病はどこまで解明されたか」
「水俣病患者の現在」－胎児性患者と福祉－

セッション「水俣の再生」－今あるものから未来を語る－
分科会A 水俣型グリーンツーリズムの魅力
分科会B エコ産業の未来
分科会C 水俣の山、里、海と人

- 9/2 シンポジウム「水俣の再生」－分科会の報告を兼ねて－
水俣型グリーンツーリズムの魅力
エコ産業の未来
水俣の山、里、海と人

申込方法

現地事務局への、FAX・郵送・メールのいずれかによる。
TEL/FAX:0966-68-9450 E-mail:info@mkplan.org

〒867-0054 水俣市汐見町エコパーク花の里インフォメーション内
水俣教育旅行プランニング
(申込をいただいた後、事務局から確認のハガキ、メールをお送りします)

●お問い合わせ先

地域連携フォーラム事務局
TEL/FAX:096-342-2340 梶山・吉野

「薬剤師のための医療薬科学研修」

のお知らせ

時代に即応できる薬の知識を習得するための、薬剤師を対象にした“薬剤師とIT”をテーマに研修会を開催します。

- 9/6(木) 19:00～21:00
「電子カルテと地域医療情報システム」
- 9/13(木) 19:00～21:00
「薬剤師とIT－インターネットからの情報と活用法」
- 9/20(木) 19:00～21:00
「薬学生への情報リテラシー教育の現状と将来」
- 実習: 9/27(木)・10/4(木) 19:00～21:00
「インターネットを利用した医薬品情報収集に関する実習」

申込方法

氏名、住所、勤務先、電話番号(連絡先)、実習受講の有無を明記の上、往復ハガキ、FAXあるいは、Eメールで、8月1日(金)までに下記宛にお申し込み下さい。なお、定員になり次第、締め切らせていただきますので御了承ください。

〒862-0973 熊本市大江本町5-1
熊本大学薬学部 教務委員会卒業後教育部会
部会長 石塚 忠男
E-mail:sotugo@www.pharm.kumamoto-u.ac.jp

男女協働政経塾開催中

熊本県、熊本大学、熊本学園大学、
熊本県立大学が
連携した人材養成講座



お問い合わせ先

熊本大学(地域連携フォーラム事務局)
TEL/FAX 096-342-2340

情報プラザ

「赤門」そばにある情報プラザでは、熊本大学のいろんな情報がゲットできます。大学案内や学部パンフレットのほか、シラバスも見る事ができるので、気軽に立ち寄ってみてください。

- 開館時間
平日の9:00～17:00
- お問い合わせ先
096-342-3280 3119



図書館

図書館といえば、県立、市立だけではありません。大学の図書館は意外と穴場です。一般市民の方にも、貸出サービスを実施しています。パソコンを利用して蔵書検索システムを利用できます。

- 開館時間
平日9:00～21:00
土 日曜、休日 10:00～16:00
- お問い合わせ先
資料サービス係 096-342-2226



大学・学部訪問

毎年夏休みに行っているオープンキャンパス（平成13年度は8/30金）以外にも随時見学できる場所があります。

- 薬学部そのまま見学
薬学部では、高校1～3年生を対象に「薬学部そのまま見学」を随時受け付けています。教育・研究の概要の説明を聞くことができ、研究室での実習及び施設見学もできます。高等学校を通じて薬学部へ申し込んでください。
- お問い合わせ先
薬学部教務企画係 096-342-4651

10/3
水

宮崎緑がやってくる、潮谷県知事が語る。

入場無料

10/2(火)～4(木)は土木学会全国大会が熊本で開催されます。下記イベントはその一環です。

14:00～15:20

特別講演会
潮谷 義子 熊本県知事
“そしてユニバーサルデザイン”

丹保 憲仁 土木学会会長
“地球環境制約の時代をかえて：近代の卒業のために”

15:30～18:00

全体討論会
“あなたは土木に何を求めますか？”
—21世紀の社会資本整備の在り方、地方中核都市“熊本”からの発言—

パネラー

本間 義人氏(法政大学現代福祉学部教授)
舩添 要一氏(舩添政治経済研究所所長)
宮崎 緑氏(千葉商科大学政策情報学部助教授)

●会場/熊本市市民会館大ホール

■お問い合わせ先:大会実行委員会(熊本大学工学部環境システム工学科内) TEL 096-342-3598
幹事長(崎元) TEL 096-342-3532 副幹事長(大谷) TEL 096-342-3535
ホームページ: <http://www.ki.rim.or.jp/jscw/index.html>



10/17
水

生涯学習教育研究センター 開所記念シンポジウム

13:30から

「地域社会と大学の役割」

「大学を開く」
天野 郁夫教授
(国立学校財務センター研究部長、東京大学名誉教授)

●会場/熊本市国際交流会館ホール

お問い合わせ・申込先

熊本大学生涯学習教育研究センター
TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3281
E-mail sos-shogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

9/13
木

19:00～21:00

熊本大学高齢社会総合プロジェクト 定例研修会

「成年後見人制度 の活用について」

●会場/熊本大学楷樹会館

お問い合わせ先

医療技術短期大学部
尾山タカ子助教授 TEL 096-342-5478

11/2 ~ 11/4
金 日

大学祭に遊びにきませんか!

熊祭祭(ユウスイサイ)



毎年11月上旬に全学規模で実施。熊祭祭実行委員会が主催し、教室企画(展示)、オープンハウス企画(研究室公開)、野外ステージ企画、及びテント企画(模擬店)棟を通じて研究活動・野外活動等の成果が発表されます。



生涯学習教育研究センターより

無料

お問い合わせ先

熊本大学生涯学習教育研究センター
TEL 096-342-3121

生涯学習プログラム 開発支援事業

自治体の職員を熊本大学生涯学習教育研究センターに派遣いただき生涯学習プログラム開発支援及び具体的なプログラム実施の体験の機会を提供します。

総合学習 支援事業

小学生高学年を対象とした総合学習プログラムを熊本大学で提供します。希望の学校を募集しています。

市町村の生涯学習事業 について

市町村の生涯学習事業の相談に応じます。また、出前相談も行います。面白いセミナーを開講したい、いい講師は誰だろう、などでお困りの方は、遠慮なく生涯学習教育研究センターへご相談ください。

生涯学習教育研究 センター主催講座

「新・家族論」
「歴史を旅する—その(I)中国」

10月開講予定

「最近気になる社会人入学への素朴な疑問」

「大人になってから学ぶ」一、楽しいからか必要にせまられてからか、とにかくそんな人たちが増えています。
社会人を受け入れる大学・大学院が増えており、利用しやすいように制度も整っています。

Q どれくらいの方が社会人入学をしているのですか？

A 熊本大学の昨年1年間の場合、大学院 文学、教育、法学、医学、薬学、自然科学研究科)と医療技術短期大学部を合わせて約150人が志願し、約90人が入学しています。

Q 試験はどのようなものになるのですか？

A 社会人が入学しやすいように、社会人特別選抜という制度を実施しています。小論文や面接等を中心としており、経験や勉学意欲を主眼において選考しています。

Q 働きながら学ぶ、その環境はどうなっていますか？

A 社会人の勤務スタイルに応じた学習ができるように履修方法、授業時間帯を配慮しています。昼間だけでなく夜間等にも授業や研究指導を受けることができます。実施しているのは、大学院 文学研究科、法学研究科、自然科学研究科です。

Q その他、耳よりな情報がありませんか？

A 平成13年度から大学院法学研究科修士課程において、社会人1年在学コースがスタートしています。1年で修了できるのは、全国的にみても先駆的なコースです。
その他、秋季入学や奨学金・教育給付も知っておくと役に立ちます。

●お問い合わせ先
学生部 教務課 教育企画係 TEL 096-342-2715

入試情報

■大学院入試日程■

選抜区分	願書受付期間	試験日
文学研究科 文学(修士/社会人含む) 秋季日程	13/9/10(月)~9/14(金)	10/1(月)・2(火)
文学(修士/社会人含む) 春季日程	14/1/21(月)~1/25(金)	14/2/18(月)・19(火)
教育学(修士)	13/8/1(火)~8/7(火)	9/4(火)
教育学(修士) 第2次	14/1/8(火)~1/11(金)	2月上旬
法学(修士/社会人・外国人含む) 第1期	13/8/1(火)~8/7(火)	9/7(金)・8(土)
法学(修士/社会人・外国人含む) 第2期	14/1/21(月)~1/25(金)	2月中旬
医学(博士) 秋季日程	13/7/30(月)~8/3(金)	9/3(月)・4(火)
医学(博士) 春季日程	14/1/21(月)~1/25(金)	14/2/13(水)・14(木)
薬学(博士前期/推薦)	13/7/2(月)~7/5(木)	7/10(火)
薬学(博士前期/社会人含む)	13/8/6(月)~8/9(木)	8/21(火)
薬学(博士前期/社会人含む) 第2次	13年11月下旬	12月中旬
薬学(博士後期/社会人含む)	14年1月中旬	14年3月上旬
薬学(博士前期/10月入学/外国人・社会人特別選抜)	13/8/6(月)~8/9(木)	8/21(火)
薬学(博士後期/10月入学/外国人・社会人特別選抜)	13/8/6(月)~8/9(木)	8/21(火)
自然科学(博士前期/社会人含む)	13/7/26(木)~8/1(火)	8/30(木)・31(金)
自然科学(博士前期/社会人含む) 第2次	14/1/8(火)~1/11(金)	14/1/31(木)・2/1(金)
自然科学(博士前期/社会人含む) 外国人特別選抜	14/2/12(火)~2/15(金)	14/2/28(木)・3/1(金)
自然科学(博士前期/社会人含む) 3年次を対象とする選抜	14/2/28(木)~3/1(金)	14/3/6(木)・7(木)
自然科学(博士後期/社会人含む)	13/7/26(木)~8/1(火)	8/23(木)・24(金)
自然科学(博士後期/社会人含む) 第2次	14/1/21(月)~1/25(金)	14/2/14(木)・15(金)
自然科学(博士後期/10月入学/社会人・外国人・帰国子女特別選抜)	13/7/26(木)~8/1(火)	8/23(木)・24(金)

■編入学・専攻科・別科入学試験日程■

選抜区分	願書受付期間	試験日
文学部(3年次編入学)	13/10/9(火)~10/15(月)	11/10(土)
法学部(3年次編入学)	13/10/9(火)~10/15(月)	11/10(土)
理学部(3年次編入学/推薦含む)	13/6/11(月)~6/14(木)	6/23(土)
工学部(3年次編入学/推薦入学)	13/6/11(月)~6/14(木)	6/29(金)
工学部(3年次編入学/推薦入学/一般選抜)	13/7/26(木)~8/1(火)	8/20(月)
特殊教育特別専攻科	14/2/12(火)~2/15(金)	14/3/1(金)
養護教諭特別別科	13/12/10(月)~12/14(金)	14/1/11(金)



永松俊雄さん(公務員)
大学院法学研究科修士課程
の社会人1年在学コースに4
から通っている。

実際に社会人入学している人の声を聞いてみました。

—社会人入学をしようと思ったのはなぜですか？

「これまでの経験や自分の考えといったものを、学問的に改めて検討、整理し直したいと思ったからです。身近に社会人入学をしている人がいたのもいい刺激になりました」

—どういった人が通っているのですか？

「年齢、職業もまちまちですし、県外から通っている人もいます。仕事は忙しいわけですが、皆さんとても意欲があるので、話しているとこちらも元気になりますね」

—実際に通いはじめてどうですか？

「授業は予想以上におもしろく興味深いですね。1対1の授業もあり、私としては貴重かつ贅沢な時間を過ごしている、というのが実感です。また先生方も熱心ですので、それに応えて頑張ろうという気持ちになりますね」

—ご家族の反応はいかがですか？

「やっど お父さんに負けないように勉強しなさい」と娘に言えるようになりました(笑)」

「特別なことではありません。
スポーツしたりガーデニングしたりする、
空いてる時間の過ごし方の一つだと思います」

編 集 後 記

■この春、県庁から熊本大学に転任し、赴任早々教師稼業も慣れないまま、編集部会長を仰せつかりました。広報委員会の委員の先生や事務局の方々に助けられて、やっと第2号の発刊に漕ぎ着けることができました。

例年にない暑い夏に、編集部会の塚本教育学部助教授、西医学部教授、済木工学部教授には企画のため何度もお集まりいただき、「新しい時代の熊本大学」というメッセージの発信に工夫を凝らしていただきました。伝統と格式の中にも斬新な試みを行っている大学、「熊本大学は変わってきた。何か面白そう」、「熊本大学でこんなことしてみたいな」と思われるような大学のイメージを伝えることができれば、私たちの挑戦は成功したといえるのですが、如何だったでしょうか。

創刊号の真っ赤な表紙に「創刊。」の大きな文字は、熊本大学のこれからの意気込みを表したものです。第2号でも、チャレンジ精神を赤で表現し、学生のみならず地域社会や企業に対しても、「熊大はこんな風にも使えますよ」という『熊大200%活用術』をこれからドシドシお伝えしていきたいと考えています。

いろんなご意見をお聞かせください。

編集部会長 上野真也)

編集委員

教育学部 助教授・塚本光夫

医学部 教授・西 勝英

工学部 教授・済木弘行

生涯学習教育 助教授・上野真也
研究センター (部会長)

事務局／企画広報室
文 責／編集部会



Illustration/ mari KAWATA

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

●宛先 (メール) ●

sokkoto@jimkunanotoruac.jp

新聞で見る熊本大学



4/10
日刊工業新聞



5/29
西日本新聞



6/26
熊本日日新聞



6/1
熊本日日新聞



7/19
毎日新聞

お 便 り 紹 介

◆今の熊大のいろんな顔を紹介しており、また視覚に訴える部分も多く、レイアウトも工夫しており、広報誌として合格だと思えます。特別企画の江口学長と潮谷知事との対談は話がうまくかみ合い、読んでいて好感が持てました。お二方の息遣いが伝わってきて二気に読ませていただきました。今後の熊大が目指す方向をほげきりと示される江口先生に、地域行政の立場から期待することと支持することをほげきり述べられる知事。県民と密着できれば熊大は大丈夫です。ミニ東大を目指してもつまらないことです。

今後、熊大通信が第2号、第3号と誌面を重ねられ、広く県民に、いや日本中の人人々に熊大の独自性と素晴らしさをアピールなさることを祈念いたします。
(熊本市 歯科医)

▼創刊号には、たくさんのご感想やご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。これからの熊本大学の広報活動の貴重な参考とさせていただきます。

大学の魅力を、教育、研究、地域との関わりの中でどう表現していくのか、その情報発信に今後も編集部会丸となり取り組んでいきたいと思っております。

これまでの熊大の殻をやぶる情報の発信をしたいと思っておりますので、いろんなご意見をお待ち申し上げます。

今年もはじまる
テレビとラジオ



お茶の間で 熊本大学を 見る! 聞く!!

●平成13年度熊本大学放送公開講座一覧●

RKKテレビ講座

(毎週日曜午前11:00~11:30)

11月4日~12月23日

「多様な生命と循環する世界」

いまごろしているときも、地球上からどんどん生物種が絶滅しています。私たちは今、豊かな多様性とつながりの世界を失いつつあります。そこで私たちは、21世紀のあるべき世界像を、「多様性と循環」というキーワードで描いてみました。

生命の多様性、生命の構造、地域と暮らしという自然のサイクル……これら多様性とそれをつなぐ循環の世界像を通して、自然と人間の関係の回復についてわかりやすくお話しします。

RKKラジオ講座1197kHz

(毎週日曜午前9:30~9:50)

9月2日~12月2日

「21世紀を共に生きる」

熊本大学は7学部、1短期大学部、6大学院研究科及び多数の学内共同教育研究施設等から構成される総合大学です。そこには、さまざまな研究と教育を行っている人材がそろっています。この講座では、昨年に引き続いてバラエティ豊かな研究の最前線を訪ねます。今年の講座のキーワードは、「共に生きる」です。新しい世紀を迎え、人々が共に健康で平和に生活を送るためのヒントを提供したいと思います。

放送日	タイトル	所属	官職	担当教官
第1回 11月4日(日)	「消える野生生物 —生物多様性と 野生生物の保護—」	沿岸域環境科学 教育研究センター	センター長	内野 明德
第2回 11月11日(日)	「多様性と生命発生 のメカニズム」	発生医学研究センター	教授	山村 研一
第3回 11月18日(日)	「阿蘇草原保全と グリーンツーリズム」	法 学 部 生涯学習教育研究センター	教授 助 教 授	佐藤 誠 上野 真也
第4回 12月2日(日)	「人間と自然と農業 —食の変化を通して—」	文 学 部	教授	徳野 貞雄
第5回 12月9日(日)	「海の世界 —その多彩な営み—」	沿岸域環境科学 教育研究センター	教授	山口 隆男
第6回 12月16日(日)	「有明海・八代海の 環境特性と地域づくり」	沿岸域環境科学 教育研究センター	教授	滝川 清
第7回 12月23日(日)	「多様性と循環 —新しい世界像を考える—」	九州大学 沿岸域環境科学教育研究センター 生涯学習教育研究センター 生涯学習教育研究センター	助 教 授 センター長 センター長 教 授	野島 哲 内野 明德 岩岡 中正 嵯峨 忠

放送日	タイトル	所属	官職	担当教官
第1回 9月2日(日)	「共に生きること」	教育 学 部	教 授	吉田 道雄
第2回 9月9日(日)	「子供と共に生きる」	教育 学 部 附 属 小 学 校	教 諭	前田 康裕
第3回 9月16日(日)	「障害と共に生きる」	教育 学 部 附 属 養 護 学 校	副 校 長	田中 和幸
第4回 9月23日(日)	「高齢者と共に生きる」	医 療 技 術 短 期 大 学 部	助 教 授 講 師	尾山タカ子 田中紀美子
第5回 9月30日(日)	「地域社会と共に生きる」	教育 学 部	教 授	古賀 倫詞
第6回 10月7日(日)	「田んぼと共に生きる」	文 学 部	教 授	徳野 貞雄
第7回 10月14日(日)	「海と共に生きる」	沿岸域環境科学 教育研究センター	講 師	逸見 泰久
第8回 10月21日(日)	「健康と共に生きる」	医 学 部	教 授	二塚 信
第9回 10月28日(日)	「世界と共に生きる」	文 学 部	教 授	池田 光穂
第10回 11月4日(日)	「法と共に生きる」	法 学 部	教 授	吉田 勇
第11回 11月11日(日)	「音楽と共に生きる」	教育 学 部	教 授	吉永 誠吾
第12回 11月18日(日)	「死と共に生きる」	文 学 部	教 授	田口 宏昭
第13回 11月25日(日)	「火山と共に生きる」	教育 学 部	教 授	渡辺 一徳
第14回 12月2日(日)	「エイズと共に生きる」	エイズ学 研 究 セ ン タ ー	センター長	原田 信志

お問い合わせ 熊本大学生涯学習教育研究センター TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3281 E-mail sos-shogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp



印刷インキは大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。